

LibreOfficeは、Microsoft WindowsやApple macOS、GNU/Linuxに対応した個人生産性向上のためのオープンソース・オフィススイートです。6つの豊富な機能のアプリケーションを提供します。

LibreOfficeは、ISO標準であるオープンドキュメント形式(ODF)を使用しています。ODFは政府機関や団体により承認されており、真にオープン標準な規格です。

LibreOfficeは従来のdocやxls、pptから新しいdocx、xlsx、pptx(Office Open XML)までMicrosoftの独占的なファイル形式の読み込み、書き込みができます。

LibreOfficeは標準PDFファイルに編集可能なODF文書を埋め込んだハイブリッドPDF形式にも対応しています。これらのファイルは、LibreOfficeではODF文書として、また他のソフトウェアではプレーンなPDFファイルとして開くことができます。

LibreOfficeには利用可能なすべての形式の文書(ODF、PDF、古い形式も含むMicrosoft Office形式)をメールの添付ファイルとして送信するためのショートカットが用意されています。

LibreOfficeには、すべてのOSと互換性があり相互運用性を高めるための自由に利用できるフォントがインストールされています。(日本語は別途Noto CJKフォントをインストールする必要があります。)

LibreOffice移行プロトコル

このプロトコルは、最も成功したいくつかのプロジェクト(ドイツ・ミュンヘン市、イタリア・ウンブリア州、ヨーロッパのいくつかの企業や公共機関など)のベストプラクティスに基づいた移行のためのリファレンスです。

いくつかの大規模移行事例

• コペンハーゲン病院システム

- 2万5千台のPCをMicrosoft OfficeからLibreOfficeに移行

• バレンシア州 (スペイン)

- 12万台のPCをMicrosoft OfficeからLibreOfficeへ移行

• フランス政府機関

- 15省庁50万台のPCをMicrosoft OfficeからLibreOfficeへ移行



詳細情報とお問い合わせ

- www.ja.libreoffice.org
- blog.ja.documentfoundation.org
- ja-contact@libreoffice.org

The Document Foundationは、LibreOfficeグローバルコミュニティを代表しています



企業および 行政機関向け LibreOffice 移行ガイド

オフィススイートは企業のワークフローにとって重要な構成要素であり個人の生産性向上に欠かせないものです。LibreOfficeは、Microsoft Officeに代わるものであり移行コストはプロプライエタリソフトのライセンスコストと比較すると大幅に低く、企業や公共機関におけるPCの総所有コストを大幅に削減できます。このリーフレットではヨーロッパでの成功事例をもとに移行プロセスの概要を説明します。

認定専門家による
助けを得て実施する
移行プロセス概要
(他にもあります)

Project Management

Communications

Analysis

- Documents
- VBA Macros
- Integration

Impact Test

- Bug Fixes
- Compatibility
- Interoperab.

Training

- Trainers
- End Users
- Third Parties

Support

- Bug Fixes
- Compatibility
- Interoperab.

Deployment

Long Term
Supported
Software

Evolution

- New Feature
Development
- Integration

成功した移行事例からの教訓

LibreOffice の機能は組織にいる大多数のユーザーの日常的なニーズに十分対応しています。一般的に技術的な障害としては、非常に複雑な文書、高度な機能を使った表計算シートまたは Microsoft Office マクロに関連したものであり、これらはさまざまな理由で移行を困難にしています。

ユーザーはトレーニングを終えると LibreOffice を使って、すぐに文書が作成できるはずですが、LibreOffice のインストールが遅れるとトレーニング効果は薄れてしまいます。ワークステーションのセットアップとテストは、トレーニングを始める前に完了させることが重要です。また、技術的なリーダーをはじめ、トレーニングを受けたサポート担当者までが移行に関連したあらゆる問題を参照できるポイントを提供することも非常に重要となります。

最初の文書を作成すると LibreOffice の品質に対する肯定的な認識が生まれます。スムーズな移行プロセスはユーザーのモチベーションを高め、より高度な機能を試してみたいと思うでしょう。

最大の問題は、変化への抵抗です。これは新しい技術を導入するすべての大規模組織におこる副作用です。移行は日常の業務に加えて負担となるものであり、コミュニケーションに集中して取り組まなければなりません。ユーザーには新しいツールがより優れた、よりやりがいのあるユーザー体験を提供するものであることを説得する必要があります。

なんの警告もなく LibreOffice をインストールしてすべての Microsoft Office を駆逐する「ブルートフォース」(力づく、暴力的な)方式の移行はすべての選択肢の中でも最悪の方法です。この方法は、成功への希望を失わせて拒絶反応を引き起こします。

移行へのステップ・バイ・ステップ

- 変化を伝える
- 移行プロセスの開始
- トレーニングとサポートを提供
- PC に LibreOffice を導入

LibreOffice の導入は、ユーザーが最初のトレーニング終了後、ソフトを使用できるようにするためには事前に計画を立てトレーニングスケジュールを調整する必要があります。

導入方法は、IT インフラに応じて選ぶことができます。LibreOffice を Windows に大量展開するには .msi パッケージを設定し GPO (グループポリシーオブジェクト)を作成することでソフトウェアパッケージの配布ができます。

LibreOffice の導入はすべての PC から Microsoft Office の根絶やしを意図するものではありません。目的は、LibreOffice を利用する PC を最大限まで増やし Microsoft Office がベンダーロックインを永続化しようとする部分を特定。Microsoft Office との相互運用性を高めることにあります。

そのためには組織内部と外部のファイルのやり取りを ODF 文書を標準とするよう、すべてのユーザーを教育する必要があります。これは真の相互運用性を確保する唯一の方法です。また文書の「見た目」問題を避けるには、利用に制限のあるフォントから制限の無いフォントに置き換える事も必要となります。

The Document Foundation では、大規模組織への LibreOffice の導入は認定された専門家によるサポートを受けながら導入することを提案しています (日本で移行を検討される方は、ja-contact@libreoffice.org までお問い合わせください。)